

### 第3回酒田市総合計画審議会行財政部会会議録

日 時 平成19年7月12日（金）午後10時～午後11時15分

会 場 酒田市役所

#### ◎出席者

##### ・部会長

小松 隆二

##### ・委員

檜山 實 青葉 礼次 佐藤 吉雄 和田 明子 佐藤 英治

##### ・欠席委員

小林 隆逸 齋藤 成徳 池田 正昭 本間 清和

##### ・事務局職員

和田 邦雄 加藤 哲夫 松本 恭博

加藤 裕 阿部 雅治 菊池 太 斎藤 勉 鈴木 繁敬

齋藤 仁志 菅原 信二 阿部 勉 菊池 裕基 熊谷 智

大谷 謙治 前田 茂男 佐藤 瞳

#### 協議日程

1 開 会

2 協 議

(1) 酒田市総合計画第1次原案【修正版】について

(2) その他

3 その他

4 閉 会

---

## 部会長あいさつ ・ 1. 開 会

○事務局（菅原信二） 本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。  
それでは部会長より開会をおねがいします。

○会長（小松隆二） ただ今から第3回酒田市総合計画審議会行財政部会を開会いたします。  
4月に諮問されました総合計画第一次原案について、総合計画まちづくり意見交換会や総合計画まちづくり50人会、市民意見の募集が行われ、多くの意見をいただきました。本日は各意見を踏まえた、第一次原案の修正案が示されております。これに関して、委員の皆様からご意見を伺いたいと考えております。また、この部会は各部会の正副部会長で構成され、総合調整的な機能を持つ部会ですので、併せて全般的事項についてもご意見をうかがえればありがたいと考えております。本日の欠席委員は4名です。和田委員は間もなく見えますので、定足数に達しております。直ちに本日の会議を開かせていただきます。それでは以下、次第に沿って会議を進めますのでよろしくおねがいします。

---

## 2. 協 議

○会長（小松隆二） それでは協議事項に入らせていただきます。2. 協議の（1）酒田市総合計画第一次原案【**修正版**】について事務局より説明をおねがいたします。

○企画調整課長（阿部雅治） （今後のスケジュールおよび資料説明、省略）

○財政課長（斎藤勉） （財政展望について資料説明、省略）

○会長（小松隆二） どうもありがとうございました。ただ今、酒田市総合計画第一次原案（修正版）と続いて、まちづくり意見交換会などでも質問のありました、財政の中期展望のご紹介をいただきました。それでは、これからただ今の事務局の説明を受けまして、酒田市総合計画第一次原案（修正版）について、また関連します、財政の中期展望についてご意見、ご質問などございましたら、どうぞご自由におねがいたします。

○委員（和田明子） 財政中期展望と総合計画が連動しないというご説明でしたが、市民意見でも「財政状況がわからないと総合計画の実現性もわからない」というような意見もたくさん出ていたと思います。酒田市の今後5年間の動向は、より一層の行政改革をやらないと総合計画を実現できないということだと思いますので、「重点プロジェクトは推進していくけれどもそれ以外のところはあきらめなければいけないところもある」というところを、もう少し総合

計画に入れていった方がいいのではないかと思います。再三申し上げておりますように総合計画ですので、個別計画との連携はもとより、財政との連携も入れないと、全体像が市民にはわからないのではないかと思います。

○会長（小松隆二） 他にいかがでしょうか。それでは事務局よりおねがいします。

○財政課長（斎藤勉） 10年間を見通した財政計画を総合計画に掲載するには難しいものがあります。

○委員（和田明子） 人口フレームの次が財政フレームというイメージで、土地利用と人口の間に財政がくるかと思えます。「財政状況がわからないと総合計画の実現性もわからない」という市民意見もありますので、細かいところは省略するにしても、全体的なところで一言入れた方がいいのではないのでしょうか。

○委員（佐藤英治） 昨日の文教部会でも、人口フレーム、財政フレームについて話題が出ました。今、和田委員からもございましたが、やはりこういうものが前提となって、中・長期計画があるものだと思います。総合計画は、全体をくくるものであって、当面の課題を達成しながら、個別計画の位置づけをはっきりして、これらを達成していくと、やがて長期計画の目標に近づくという計画であると思えます。冒頭に、財政展望は総合計画に連動するものではないとありましたが、基本的には両者を連動させて、酒田市の財政が大変な状況にあるという位置づけがあってもいいのではないのでしょうか。今、財政展望の数値を見て初めて、私も市の方々が大変なご苦勞をなさっていることを実感しました。市民の方々には、不安をあおるといけないので、この生々しい数値は出せませんが、10万地方都市の没落ぶりが激しい昨今の状況は、酒田市も例外ではありません。和田委員がおっしゃるように数値そのものを出さなくても、市民の皆さんと協力して、一緒に総合計画という夢に向かって進んでいきたいと思いますというスタンスをもっと強く打ち出せないものではないのでしょうか。

○会長（小松隆二） この点について、他にいかがでしょうか。

○財政課長（斎藤勉） （財政中期展望補足説明、省略）

○委員（佐藤吉雄） 72ページ「計画推進のために」のところで、目標数値を出して頑張ろうという希望的な表現になっていますが、第8章の厳しい経営面を考えたとき、この程度の表現にとどめてもよいものかと悲壯感を持っています。昨年8月に出された行財政集中改革プランでは、この5年で市役所職員は85人減らし、22億円削減するということを具体的に述べています。総合計画の随所に目標数値が出ているときに、行政運営についてのみ具体的な目標数値がないというのは、これでいいのでしょうか。もっと第8章を厳しく受け止めてほしいと思

います。「自己決定・自己責任」という言葉は、夕張市の財政破綻から発生したのですが、非常に厳しい地方自治体の状況を端的に表した言葉だと思います。このような言葉が一切使われていません。今の市の財政運営においても「自己決定・自己責任」が大前提ですので、きちんと前段でこれを整理しておくべきだと思います。例えば、補助金の整理統合・削減は至上命題だと思います。補助金をもらっている団体には、そのことを意識して頑張ってもらわなければなりません。また、72ページに、個別計画については「一覧を資料編に記載予定」とありますが、決して良いことばかりではないということを市民がうかがい知れるようなものにしてほしいと思います。

○企画調整部長（松本恭博） 市民と共に歩む夢のあるまちづくりについては、これまでの総合計画にも色濃く出ておりましたが、どちらかというと市民要求型で、施策も網羅的にならざるを得ない部分がありました。しかしながら、昨今の地方行政をめぐる財政的な裏付けは大変厳しく、現実の姿を公にしなければならない時期にそろそろ来つつあると考えています。財政課長の立場では、ある程度厳しく見て、中期展望で約15億円の不足が出るということでしたが、正直申し上げまして、酒田市の場合は「厳しい、厳しい」という掛け声は出させてもらっておりますが、類似団体に比べますと、まだまだ余裕があります。前年度からのいわゆる剰余金が12～3億円ありますので、実際の基金取崩額は数億円にとどまる見込みです。ただ、それを公表する際に、夕張市のような混乱は避けなければなりません。情報発信する行政側と受け止める住民側との認識レベルが、ある程度揃ってこないと非常に危険です。15億円の不足額をいきなり公表してしまうと、これは恐らくパニックが起こってしまいます。その表し方はこれから考えていかなければならないと思います。第8章行財政の部分は、最終まで検討させていただき、もう少し厳しいシグナルを発信するような内容に書き込んでいかなければならないと考えております。

○会長（小松隆二） 序段では、用語解説だけでなく、審議会や市長さんの基本姿勢を打ち出しても良いと思います。財政が厳しい中で、明るい将来を描くことは難しいことですが、考え方や認識を変えれば、夢も広がります。酒田市は人件費の削減など、他の自治体よりも頑張っていると思います。行政も自分たちだけで苦労しないで、情報を全て開示し、市民に理解や協力、参加を求める姿勢が大切だと思います。限られた財源でも、市民がみんなで検討すれば、独自でできるまちづくりも相当あります。市民も、指定管理者制度のような行政の下請けでなく、どんどんボランティアの輪を広げていってほしいと思います。財政状況は厳しいけれども、夢を持って進めるには、市民の協力・参加が必要であることをもっと序なりで取り上げてほし

いと思います。

また、1990年半ば以降、東京の一極集中が進んでおり、地方よりもむしろ都心で、地方荒廃を懸念する声があがっています。東京では人口と税収を増やすために規制緩和が行われ、ペンシルビルがどんどん建設されています。このビルがワンルームマンションであることからわかるように、これは都心に住みたい人を集めて再生するのではなく、いずれは出たいという人口を集め出すという、地方をないがしろにした、なりふり構わない施策です。こうしたペンシルビルの高層化は、景観を損なうということで、周辺住民による反対運動も起こっています。阿部市長の持論に「地方再生こそ日本発展の鍵である。そのためには市民ともどもまちづくりをする」とあるように、このことについても、今後具体的に検討するといった姿勢を序で打ち出されたいと思います。これは、市長名で出されても良いかと思います。

さて、他にいかがでしょうか。皆さんのお考えも伺いたいと思います。

○委員（佐藤英治） 市民が自治についてよく考え、自分で自分のまちをつくるという意識づけを行うとともに、これまでの行政の意識を変えていく転換期に来ていると思います。この間、最大の問題である雇用について、私自身が仕事を探しているという前提で、酒田市のホームページにアクセスしてみました。現在、市でなさっている仕事の内容は良く出ていましたが、単に並べてあるだけで、どこを見ればいいのかわからず30分経っても見つけられませんでした。困っている市民の視点でホームページが作成されていないように感じました。実際は雇用対策の事業もなさっているのですから、最初のページに「仕事」というのががあると親切だと思いました。単にホームページの構成を見れば、行政のものの考え方がわかるということで、改めて他市のホームページも調べましたが、いずれも似たような構成になっていました。企業のページは非常に上手に組んであります。そういうところで、私たちのものの考え方をそろそろ根本から変えなければならない時代になっていると感じました。

○会長（小松隆二） 各章のタイトル横に添えられたカッコ書きを取るのも一案ですが、章の内容がすぐにわかるようにタイトルを直すことも検討されたいかがでしょうか。例えば、第1章「公益の心を育むまち」は、重点プロジェクトにあるように「創造と公益の心を育むまち」とすれば、教育や文化が入っている印象があります。7章も「明日を拓く交流のまち」のままでは、すぐ交通基盤的なことを連想できません。

また、基本理念の象徴的な言葉に「人」「地域」「恵み」とありますが、この中で、「恵み」は、伝統、歴史の良さは伝わってきますが、同時に受身のイメージもあります。「人」と「地域」みんなと一緒に作る「共創」に変えたいかがでしょうか。議論を覆すつもりはご

ございませんので、感想までに申し上げさせていただきました。

最後に説明いただいた人口フレームについても何かございましたら伺えればと思います。

それではご意見、ご質問がないようでしたら、本日の議論はこの程度にとどめさせていただきたいと思います。

それでは協議事項（２）その他について、委員の皆様から何かございませんでしょうか。

---

### 3. その他

○会長（小松隆二） それでは事務局の方からその他いかがでしょうか。

○企画調整課長（阿部雅治） 次回は7月26日、最終答申は8月10日前後ですので、ぜひまたご協力のほどよろしくおねがいしたいと思います。ご案内は早めにお出しいたしますのでよろしくおねがいいたします。

○会長（小松隆二） これそれでは、以上をもちまして本日の行財政部会を終了いたします。どうも長時間ありがとうございました。

閉会 午前 11時15分